

2024 環境経営レポート

Environmental Management Report



2025年7月1日発行
第21版：2024年3月～2025年2月実績



(株)グリーンロジスティクス
e-style camp

ホームページ <http://www.greenlogistics.co.jp>



@GREEN_LOGI0743



目 次

1.経営理念と環境経営方針	1
2.SDG'sの取組み	2
3.事業概要 I ~IV	3 ~ 6
4.環境経営マネジメントシステム	7
5.環境経営目標	8
6.環境活動実績	9
7.環境活動計画の取組結果と その評価 I ~ II	10 ~ 11
8.今年度の取組み I ~ II	12 ~ 13
9.課題への取組と評価	14
10.教育・研修実施計画及び実施記録	15
11.環境への取組の履歴	16 ~ 17
12.地域環境コミュニケーション I ~ V	18 ~ 22
13.環境関連法規の遵守	23
14.環境経営計画	24
15.代表者による全体評価と見直し	25



経営理念と環境経営方針

【経営理念】

1. 地域環境コミュニケーションの形成

廃棄物処理事業活動を通じて地域社会に豊かな環境コミュニケーションを形成します。

これにより地域社会の一員として地域のあらゆる要望に対して、私達の企業資源の全てを活用して「私達らしく」応えられる企業であり続けます。

2. 学習型企業への発展

全社員が主役の会社を目指します。

社員の創意工夫や自主性が十分に發揮できる社風を創り、働く環境の中から互いに学びあい、尊重しあい、活力に満ちた心豊かな人間集団としての学習型企業を目指します。

この経営理念を実現するために、社員一人一人が心身ともに健康で活き活きと働けるよりよい職場環境を整備し、組織全体で「健康経営」に取り組みます。

～環境経営方針～

基本理念

株式会社グリーンロジスティクスは、廃棄物の中間処理・収集運搬業務を通じて、人と環境が調和し共存できる循環型社会への構築に向けての地域環境保全に努めます。

行動指針

1. 環境負荷の低減を目指し、重要項目として下記の項目に重点を置き、計画的・継続的・効果的なCO2削減活動を行います。

- ① 収集運搬車両及び重機等による燃料使用量の削減
- ② 産業廃棄物リサイクル率の向上
- ③ 水光熱使用量の削減
- ④ 再生可能エネルギーの生産・供給
- ⑤ グリーン商品の積極的購入及び資源の有効活用

2. 全社員が、地域社会における役割と責任を認識し、地域融和活動に努めます。

- ⑥ 第一に私達は、地域社会の一員であることを自覚します。そして、地域に対して「役立ちたい」というもつとも高い価値観を共有します。
- ⑦ 地域の企業・環境団体や行政との連携を深く図り、地域が参加できる環境保全活動を企画・実践します。そして、知識・情報を共有し環境ネットワークづくりに努め、地域社会にも広く発信します。

3. 環境関連法規・条例・要綱及び全ての要求事項を遵守します。

4. あらゆる人に環境レポートを公開し、地域環境コミュニケーションの形成のための協力と理解を求めます。

～この環境方針を基底に、環境経営システムを確立し、継続的に運用・改善を行います～

制 定 日 2005年5月1日

最 終 改 定 日 2024年7月1日

株式会社グリーンロジスティクス

代表取締役 岩崎 浩



◆【熊本県SDG's登録制度】

■登録証と取組み項目



@2010熊本県くまモン
第1期熊本県SDG's登録事業者
として登録しました。

私たちは以下の項目を重点項目として
SDG'sに取り組んでいます。



■【取組み事項の決定】



5. ジェンダー平等を実現しよう

- 5-1 職場内外におけるジェンダー平等。
- 5-5 職場内外の意思決定において、女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。



7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに

- 7-2 再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
- 7-3-a 化石燃料の使用量の削減。



8. 働きがいも経済成長も

- 8-5 老若男女、障がい者の雇用の確保及び働きがいのある業務・環境の提供。
- 8-8 すべての労働者に安心安全な労働環境の促進



12. つくる責任 つかう責任

- 12-4 廃棄物による人への健康被害や環境への悪影響を最小限化するため、廃棄物の大気・水・土壤への放出を削減する。
- 12-5 廃棄物の発生防止・削減・再生利用。



17. パートナーシップで目標を達成しよう

- 17-17 さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略を基にした公的・官民・市民社会のパートナーシップを奨励・推進する。



事業概要 I

◆会社概要

事業所名	株式会社グリーンロジスティクス
代表者名	岩崎 浩
所在地	管理事務所／熊本県菊池郡大津町杉水2506番地 圧縮・梱包及び破碎・選別棟・現場事務所／熊本県菊池郡大津町杉水2509番地1
資本金	1,000万円
設立	1992(平成4)年12月21日
事業内容	一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業 一般廃棄物処分業(大津町)・産業廃棄物処分業(選別・破碎/圧縮・梱包) 有価物(古紙・再生樹脂・鉄・非鉄スクラップ)の回収・加工・販売
会計年度及び環境年度	3月1日から翌年2月末日
情報公開	ホームページ http://greenlogistics.co.jp 産廃情報ネット情報開示システム http://www2.sanpainen.or.jp/zyohou

◆許可内容

※2025.7.1現在

No.	許可の種類	自治体	許可番号	許可年月日	有効年月日
1	一般廃棄物収集運搬業	大津町	第10号	2024.4.1	2026.3.31
2		菊池市	第2508号	2023.4.1	2027.3.31
3		合志市	第14号	2023.4.1	2027.3.31
4		菊陽町	第125号	2024.3.7	2026.3.31
5		益城町	第24-3号	2024.4.1	2026.3.31
6		西原村	第4020号	2023.3.29	2027.3.31
7	一般廃棄物処分業	大津町	第64号	2024.7.12	2027.3.31
8	産業廃棄物収集運搬業	熊本県(積替保管含)	第04310008464号	2022.10.11	2029.9.8
9		鹿児島県	第04603008464号	2021.8.12	2026.8.11
10	産業廃棄物処分業	熊本県	第04320008464号	2023.5.7	2030.9.29

※2013.5.16 熊本県より『優良産廃処理業者』に認定

※2019.1.11 事業範囲の変更許可(積み替え保管の追加)



◆事業全体計画

◇産業廃棄物処分業(熊本県)

排出事業所から排出された産業廃棄物を搬入し、計量後、処理前保管場所にて保管する。その後、機械選別ライン・破碎機・圧縮梱包機にてそれぞれ処理を行う。その後は処理後保管場所に保管し、有償売却又は処理委託する。

◇産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

熊本県内の排出事業者より委託を受けた下記の産業廃棄物を収集し、排出事業者が指示する中間処理業者又は最終処分業者に飛散・流出することなく速やかに、かつ適正に運搬する。

また、水銀使用製品産業廃棄物及び石綿含有廃棄物の積替え保管を行う。

◇産業廃棄物収集運搬業(鹿児島県)

主に自社の中間処理場より排出される残渣物の紙くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、廃プラスチック類を中間処理施設及び最終処分場へ運搬する。

県内の各事業場より排出される燃え殻、ばいじん、汚泥は最終処分場へ、動植物性残渣は中間処理施設へ運搬する。

水銀使用製品産業廃棄物、石綿含有産業廃棄物は中間処理施設及び最終処分場へ運搬する。

◆処理計画量

◇産業廃棄物処分量(熊本県)

処分する産業廃棄物の種類等(選別・破碎・圧縮梱包)

廃プラスチック類60t/月・木くず50t/月・金属くず6t/月・がれき類20t/月・紙くず2t/月・繊維くず0.5t/月

ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず20t/月・ゴムくず0.1t/月・混合廃棄物150t/月

◇産業廃棄物収集運搬業(熊本県)

収集運搬する産業廃棄物の種類等

1)紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・廃プラスチック類・ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず⇒800t/月

2)廃プラスチック類・木くず・金属くず⇒50t/月

3)木くず⇒60t/月

4)がれき類⇒50t/月

5)ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず⇒50t/月

6)動植物性残渣⇒0.6t/月

7)燃え殻・ばいじん⇒1t/月

8)汚泥⇒2t/月

9)水銀使用製品産業廃棄物(金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・廃プラスチック類・汚泥)⇒0.6t/月

10)石綿含有廃棄物(ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類・廃プラスチック類)⇒5t/月

◇産業廃棄物収集運搬業(鹿児島県)

収集運搬する産業廃棄物の種類等

1)廃プラスチック類、木くず、金属くず、紙くず、繊維くず、ゴムくず ⇒ 26.1t/月

2)ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず ⇒ 40t/月

3)がれき類 ⇒ 10t/月

4)動植物性残渣 ⇒ 1t/月

5)燃え殻・ばいじん・汚泥 ⇒ 1.1t/月

6)水銀使用製品産業廃棄物 ⇒ 1t/月

7)石綿含有産業廃棄物 ⇒ 2t/月



事業概要Ⅲ

◆事業の規模

		単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
売上高		百万円	403	391	430	492	505	532	554
廃棄物取扱量 (有価物含)	収集運搬	t	12,240	11,549	11,031	12,216	12,575	12,569	13,004
	中間処理	t	7,497	7,429	7,351	8,434	8,660	8,464	8,725
従業員数		人/年	32	30	32	33	36	37	39
敷地面積		m ²	6,342	6,342	6,342	6,342	6,342	6,342	6,342
車両台数		台	16	16	17	17	17	19	20

◆施設の種類と処理する廃棄物の種類、処理能力

	選別施設	破碎施設	圧縮梱包施設①	圧縮梱包施設②	圧縮梱包施設③	積替保管施設
品目	廃プラスチック類 木くず 金属くず 紙くず 繊維くず ガラスくず ゴムくず コンクリートくず及び陶磁器屑 がれき類	廃プラスチック類 紙くず 木くず 繊維くず	廃プラスチック類 金属くず 紙くず 繊維くず	廃プラスチック類 金属くず 紙くず	廃プラスチック類 金属くず 紙くず 繊維くず	①石綿含有廃棄物 ・廃プラスチック類 ・ガラスくず ・コンクリートくず及び陶磁器くず ・がれき類 ②水銀使用製品産業廃棄物 ・廃プラスチック類 ・金属くず ・ガラスくず ・コンクリートくず及び陶磁器くず ・汚泥
処理能力	15t/日(8h)	廃プラスチック類 3.3t/日(8h) 紙くず 4.3t/日/(8h) 木くず 4.2t日/(8h) 繊維くず 4.8t日/(8h)	廃プラスチック類 65.6t/日(8h) 紙くず 73.6t日/(8h) 繊維くず 83.2t日/(8h) 金属くず 244.8t日/(8h)	廃プラスチック類 3.4t/日(8h) 紙くず 73.0t/日(8h) 繊維くず 2.9t/日(8h) 金属くず 10.8h/日(8h)	廃プラスチック類 85.2t/日(8h) 紙くず 73.0t/日(8h) 繊維くず 47.4t日/(8h) 金属くず 93.0h/日(8h)	保管上限・面積・高さ ①石綿含有廃棄物 保管上限/6.1m ³ 面積/6.9m ² 高さ/0.88m ②水銀使用製品産業廃棄物 保管上限/0.76m ³ 面積/1.4m ² 高さ/0.6m
処理方式	手選別及び機械選別ライン	破碎機	圧縮梱包機	圧縮梱包機	圧縮梱包機	

事業概要 IV

◆運搬車両

【種類と台数】

車種	大きさ	台数
クラム車	8t	1
アームロール車	10t	1
	4t	2
	2t	1
ユニック車	4t	1
	3t	1
パッカー車	4t	9
	2t	1
軽トラ		1
キャブオーバ	1t	1
ウイング車	10t	1
合計		20 台

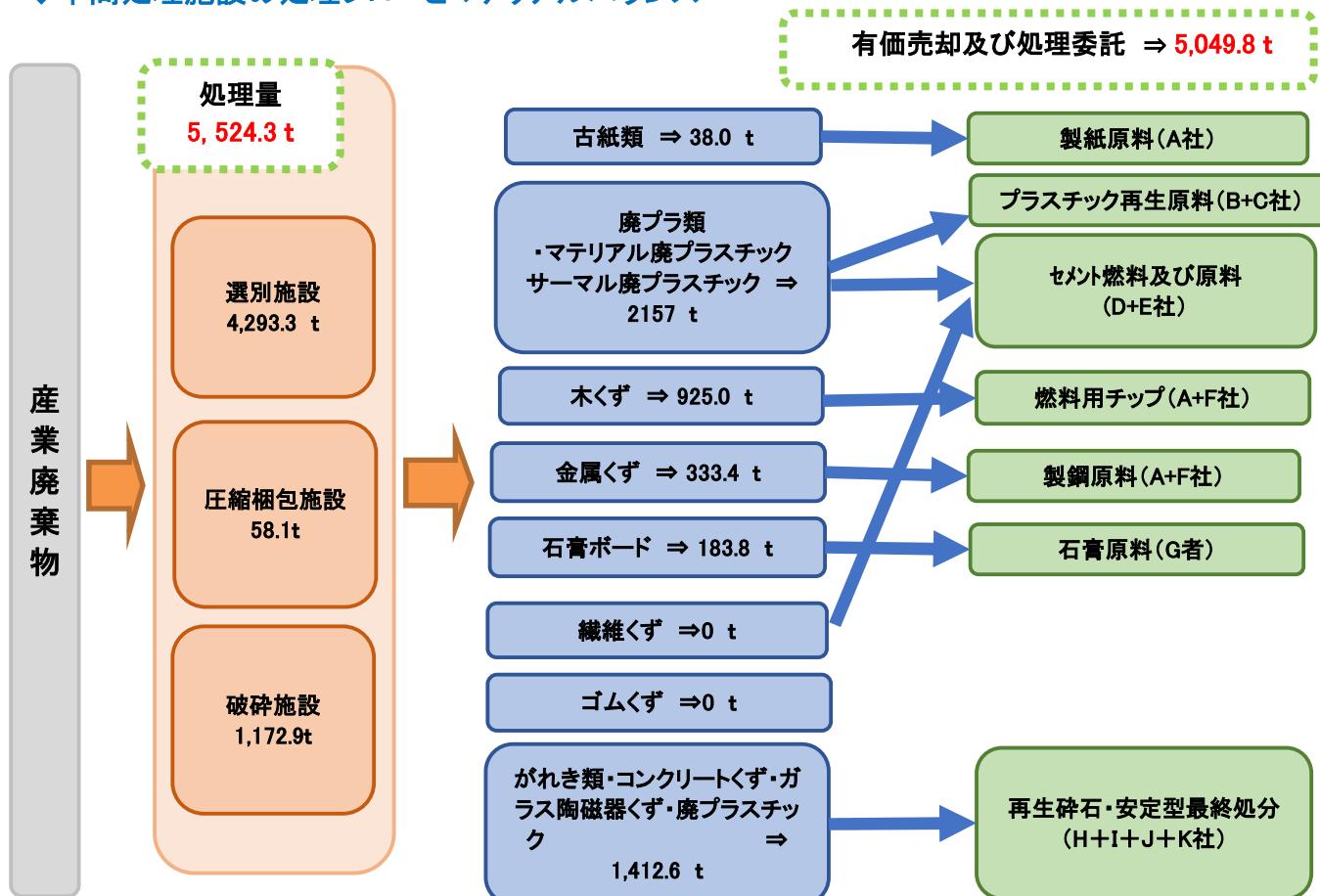
【低排出ガス車の導入状況】

◇平成12年度基準適合/排出ガス25%低減車	1台	5.0%
◇平成12年度基準適合/排出ガス75%低減車	1台	5.0%
◇平成12年度基準適合/排出ガス85%低減車	1台	5.0%
◇平成17年度基準適合/排出ガス10%低減車	3台	15.0%
◇平成21年規制適合車	1台	5.0%
◇平成22年規制適合/排出ガス10%低減車	6台	30.0%
◇平成28年規制適合車	4台	20.0%

【低燃費車の導入状況】

◇平成27年度燃費基準達成車	13台	65.0%
----------------	-----	-------

◆中間処理施設の処理フローとマテリアルバランス





環境経営マネジメントシステム

◆エコアクション21組織図



☆環境管理責任者の連絡先 (096)293-0743

役割・責任・権限	
代表取締役	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針の策定とEA21環境マネジメントシステムの統括。 ・環境管理責任者の任命。 ・全体の取組み状況や評価及び見直しの実施・指示。 ・環境経営レポート発刊の承認。
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・代表取締役より委任を受け環境経営システムの構築・運用・維持に関する責任と権限。 ・環境経営計画の策定及び進捗管理を代表取締役へ報告。 ・環境関連法規の取りまとめ、活動の評価及び環境経営レポートの作成、公表。
環境管理委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者と連携し環境経営システムの構築・運用・維持の補佐。 ・環境活動における決定事項の社員事項の社員全員への周知及び環境活動記録の取りまとめと報告。
社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営方針、環境目標に沿った環境活動の実施。 ・環境活動における改善点の提言



環境経営目標

環境目標	単位	基準年 2023年実績	3年間の目標		
			2024年	2025年	2026年
二酸化炭素排出量	Kg-CO2	345,117	348,000	395,497	393,745
	Kg-CO2/百万円	649	650	693	670
購入電力量	KW/h	9,081	9,250	9,300	9,113
		64,686	65,000	141,000	150,000
太陽光発電量	KW/h	84,896	85,000	81,000	81,000
化石燃料	1)灯油	234	270	234	234
	2)ガソリン	3,421	2,900	3,300	3,267
	3)軽油	118,909	120,000	147,500	147,500
	4)ガス(LPG)	Kg	16	40	15
水資源使用量	m³	1,072	815	978	958
事業所からの廃棄物排出量	Kg/人	7	8.7	5.0	4.9
リサイクル率の向上	%	76.9	76.0	78	78
フラフ燃料製造量	t/月	—	—	100	110

【注記】

- 1.二酸化炭素排出量については、収集運搬車両及び重機の稼働による軽油の割合が高く、業務量により変動するため、売上100万円当たりの数値で環境目標を設置している。
- 2.購入電力の二酸化炭素排出係数(調整後排出係数)については、2023年度実績の新出光(0.413Kg-CO2/kwh)及び九州電力(0.462Kg-CO2/kwh)を使用した。
- 3.購入電力との比較ができるよう太陽光発電量を記載している。

【目標の設定】

フラフ燃料の製造設備が完成し、2024年5月から本格的に生産稼働を始めました。それにより、施設の使用電力量が前年度の2倍以上となりました。

また、近年の異常気象により暑い時期が長くなり、エアコンの使用時間も増えてきています。この状況は今後も続くと思われるため、電力の目標を大きく変更しました。

太陽光発電量については、発電シミュレーションにより目標(85,000kwh以上)を設定していましたが、パネルの経年劣化による発電量の低下を考慮し、目標値を81,000kwhへ下方修正しました。

半導体企業の進出により弊社でも収集運搬量の増加が見込まれます。それに関連して、燃料使用量の増加を予想した目標値としました。

以上より、弊社の二酸化炭素排出量の大幅な削減は厳しいと思われますが、フラフ燃料は化石燃料と比較してもCO2の排出を20%削減できる燃料として注目されているため、フラフ燃料の製造量を2025年度からの目標項目に追加しました。5年後までに140t/月の製造を目指します。

弊社は、廃棄物の収集運搬及び中間処理業務を行っているので、中間処理におけるリサイクル率で環境に貢献できるよう76%以上を目標に掲げています。



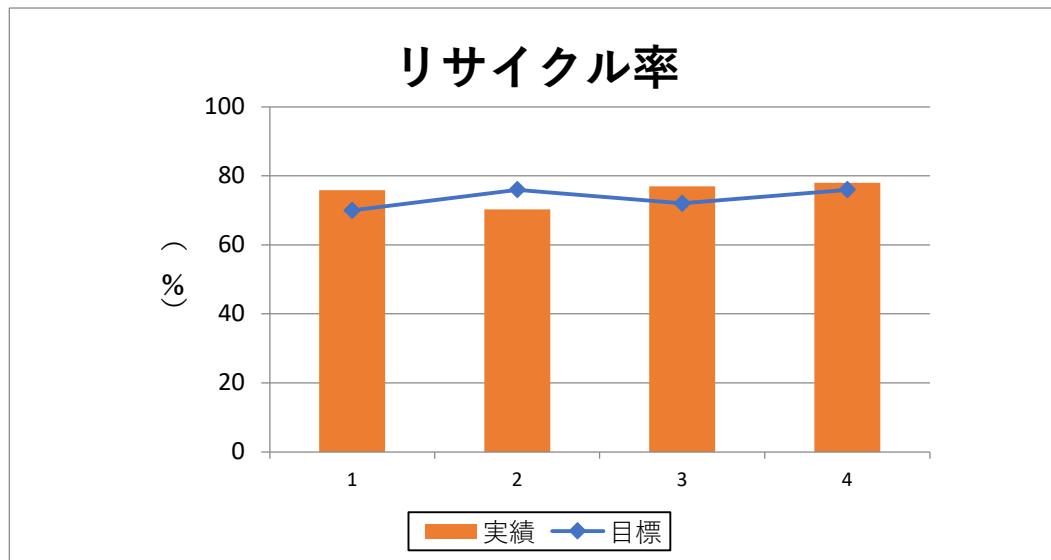
環境活動実績

	取組項目	対象Gr	取組内容	評価
●二酸化炭素排出量削減	電気 電力 使用量 の削減	管理事務所・施設事務所	①未使用部屋の照明・パソコンの電源はこまめにオン・オフの切り替えをする ②エアコンの設定温度を夏季は一定(28°C)とし、冬季はヒーターを活用することで電気の使用量を削減する	○ ×
		施設	①負荷を減らし効率的な稼働に努める	○
	灯油 ガス 使用量 の削減	管理事務所	①給湯室のガスコンロ使用は必要最低限に留める	○
			②ヒーターのフィルター清掃(冬場1回/月)	○
			③ヒーターの設定温度を一定(20°C)にし、暖かい服装を心掛ける	×
	軽油 ガソリン 使用量 の削減	収集運搬グループ	①エコドライブ講習会の実施	×
			②タイヤ点検講習会の実施とタイヤ空気圧チェックの実施	○
			③重機運転・メンテナンス研修会の実施	×
			④過積載をなくし燃料使用量削減の向上に努める	○
			⑤処理委託先及び有価物売却先への輸送を4t車から大型車両へ変更することで燃料使用量を削減する	○
			⑥車両ごとの燃費を算出し、講習会の企画や車両のメンテナンス・買い替えの目安とする	○
●水使用量削減		全グループ	①洗車は高压洗浄機を使用する	○
			②冬場の水道管凍結による破裂防止のため、毛布を巻くなどの対応をする。また、極寒時には水を少量流すなどの対策をする	○
			③漏水の早期発見のため、夏場は2週間に1度、冬場は1週間に1度の漏水点検をする	○
			④水道使用時に水の出しつばなしをしない	○
			⑤蛇口・ストッパーなど設備不良のチェックや取替を適時行う	○
●事務所から 量削減の 廃棄物		全グループ	①可燃・不燃・ビンカンペットの分別の徹底	○
			②プラスチック類の分別	○
			③紙類の分別(古紙・新聞・シュレッダー)	○
			④社内文書はできるだけメールやSNSツールを利用し、紙で必要な場合は裏紙を使用する	○
			⑤ファクシミリの受信はパソコンの画面で確認し、必要な場合のみ印刷する	○
			⑥新入社員研修にマイバッグ・マイ箸の使用推奨、持ち込んだゴミの持ち帰り、3R推進の項目を入れる	○
●有効資源活用の ●効率化		施設	①お客様より買い取った段ボールを利用した段ボール圧縮ブロックを有価物置場の仕切りとして活用する	○
			②お客様より買い取った鉄製コンテナを保管BOXとして活用する	○
●リサイクル率 の向上		全グループ	①圧縮・破碎・選別の中間処理において、付加価値を高めた再資源化に努める	○
			②排出事業者様に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う	○
			③破碎機・圧縮機等メンテナンスの徹底 ※破碎機の刃の交換により、負荷の少ないより効率的な稼働でリサイクル率の向上に努める	○
			④排出事業者様に対して行政からの資料等を配布し分別の徹底をお願いすることにより、単純焼却量を減らし再資源化の量を増やすよう努める	×



環境経営計画の取組結果と その評価 I

項目	単位	基準年 年度 基準値 2023	100%以上	70%以上	70%未満	
			2024年度目標値	2024年度実績	達成率	評価
二酸化炭素排出量	Kg-Co2	345,117	348,000	399,461	87.1	
	Kg-Co2/百万円	649	650	721	90.2	
購入電力量	Kw/h	9,081	9,250	9,426	98.1	
購入動力量		64,686	65,000	135,175	48.1	
太陽光発電量		84,896	85,000	81,850	96.3	
化石燃料	灯油	234	270	250	108	
	ガソリン	3,421	2,900	3,218	90.1	
	軽油	118,909	120,000	128,351	93.5	
	液化石油ガス	Kg	16	40	15	
水資源使用量	m³	1,072	815	999	81.6	
事務所からの廃棄物排出量	Kg/人	7	8.7	5	174	
リサイクル率の向上	%	76.9	76.0	78.0	102.6	



●リサイクル率

リサイクル率は前年度の76.9%から78.0%へと上がりました。

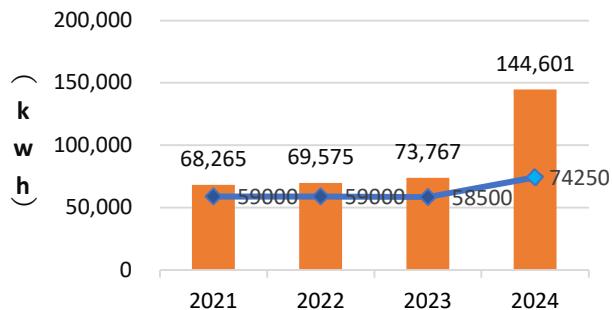
フラフ燃料の製造が始まったこと、埋立処理されるガラスの受入が削減されたことでリサイクル率が上がったと考えられます。フラフ燃料製造の効率化をはかり、リサイクル率の向上に努めます。

環境経営計画の取組結果と その評価Ⅱ

■ 実績

■ 目標

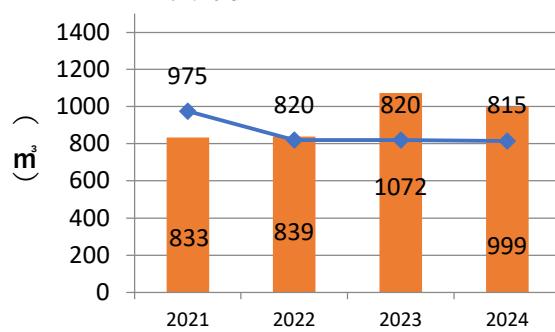
購入電力



● 購入電力

フラフ燃料の生産が始まり、消費電力が2倍以上に増加しました。また、温暖化により暑い時期が長くなったりこと、地理的に事務所の冷え込みが厳しいため、事務所棟の電気使用量も増加しました。これらのことから、目標値の見直しを行います。

水資源使用量



● 水資源使用量

水の使用量は目標達成できませんでした。車両が1台増え洗車に使う水使用量が増えたことに加え、新設した女子トイレの水もれの対応に時間がかかったことが影響していると思われます。

■ 次年度の取組

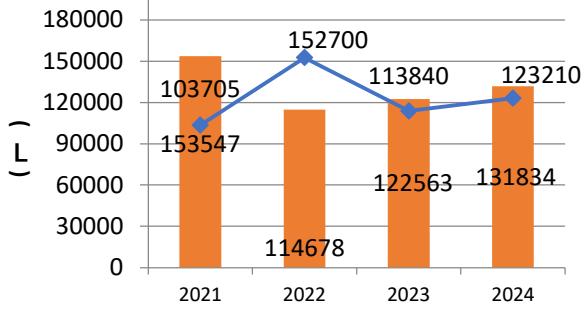
● 施設

工具充電やコンプレッサー等機器の未使用時電元OFFを行う
水道使用時の使い方を意識し、漏水確認や出しづらしをしない
担当者を選任し、重機のメンテナンス講習を実施する

● 収集運搬

アイドリングストップ、エコドライブ講習会を実施し、
ドライバーの技術・意識向上をはかる。
各車両に搭載しているドライブレコーダーの機能「スマーリングロード」では、各ドライバーの運転の傾向が
つかめる、運転の採点ができるなどの機能が利用できるため、それぞれに適した指導に活用し、事故防止や
エコドライブに努める

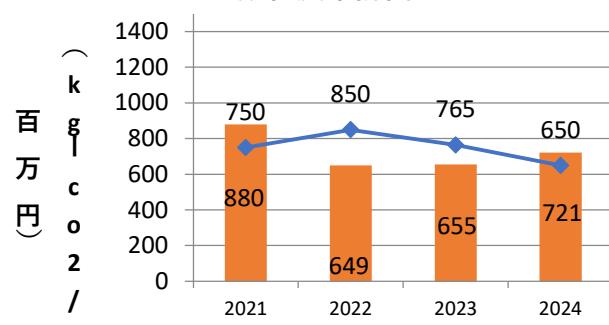
化石燃料



● 化石燃料

今年度は収集運搬量が前年度に比べ430tほど増えたこと、また大型車を増車したことなどにより、軽油使用量が増加しました。

二酸化炭素排出量



● 二酸化炭素排出量

フラフ燃料の製造が始まり電気の使用量が大幅に増加しましたが、その増加に対する売上高の伸びが少なかったため、売上100万円に対するCO2排出量が増えてしまいました。

● 事務所

未使用的部屋の電気は消す
エアコン使用時はきちんとドアを閉める
温湿度計を購入し、室内温度を調整する
ヒーター使用期間中はフィルター清掃を週1回行う
冬場は暖かい服装を心掛け、ヒーターの温度調整をこまめに行う
事務所から出る廃棄物の分別を徹底する
気候が変わり、過酷な暑さが長く続くようになってきているため、電気使用効率や作業効率を考慮しエアコンは継続的に使用する



今年度の取組 I

フラフ燃料の製造を始めました！



脱炭素社会実現に貢献する「エネルギー・リカバリーとしての代替燃料

CPF燃料とは、Cube Plastics Fuel の略称で主に廃プラスチックを中心とした、紙くず、繊維くず等を破碎、圧縮梱包した廃棄物由来の燃料です。石油や石炭などの化石燃料由来のエネルギーの代替として注目を集めているエネルギーであり、環境への負荷を低減しつつ、廃棄物を有効に再利用する手段として注目を浴びています。

処理フロー

- 1 原料となる廃プラスチック等を50mmアンダーまで2種類の機械にて破碎します。



- 2 破碎品を6面ベール機に投入し、圧縮梱包されます。



- 3 ベールされたCPF燃料は、セメントメーカーに焼成工程の燃料として供給・販売します。





今年度の取組Ⅱ

大型ウイング車を購入しました

●2024年問題で輸送委託先の車両確保が困難な状況が予想されたため、大型のウイング車を購入しました。製造したCPF燃料を販売先まで自社運搬できるようになりました。産業廃棄物の収集運搬車両に登録し収集にも活用しています。また、来期に地域の方を招待して開催する「地域感謝祭」のステージとしても使用する予定です。



分別の協力をお願いしました



●一般廃棄物の収集において、可燃物への紙くずやプラスチックの混入が多いことが問題となっています。自治体からも指摘を受けているこれらの問題に対し、排出先の事業所様へ専用容器を提供し、分別の協力をお願いしました。分別していただいたプラスチックは、弊社のフラフ燃料の原料として効率的に利用します。処分場で受入不可の廃プラスチックの再生利用となり、プラスチック問題解決への貢献に繋がります。

AEDを設置しました



施設事務所にAEDを設置しました。

廃棄物の選別や破碎、圧縮梱包を行う弊社では、いろいろな什器の操作や車両の運転など、危険を伴う作業も多く、社員の年齢も20代～70代までと幅広い年齢層を抱えているため、いざという時に安心です。安心して働ける職場作りに繋がります。

健康経営始めました！



●社員一人一人が心身ともに健康で活き活きと働くように、7月に『健康経営宣言』しました。各グループで行動目標を立て取組んでいます。全社での取組として、秋に「ミニバレー大会」を開催しました。グループをこえたチームでの戦いで、コミュニケーションも生まれました。これからも年間行事として続けていきます。



課題への取組と評価

◆次年度の見直し(前年度の環境レポートより)

- ①6月よりCPF(フラフ)燃料の生産を開始します。燃料生産量の目標をあげ、原料確保に努力し、品質の高い燃料を生産します。
- ②輸入委託先の車両確保が困難な状況です。大型のウイング車を購入し、CPF燃料を販売先まで自社運搬を行います。
- ③夏場より燃費向上装置をデモ導入し、更なる燃料使用量削減を目指します。
- ④廃プラスチックのうち、再資源化不可で安定型埋立になっているものを焼却処理に変更し埋立量を減らします。
- ⑤建設廃棄物の受入量が近年増え許容量まで達しています。今後は廃プラスチックの受入を増やし、地域の課題であるより良い再資源化に貢献します。
- ⑥事業系一般廃棄物のうち可燃物の分別が不十分です。排出先・行政と連携して、排出先に専用容器を提供し、分別をお願いします。分別された廃プラスチックは、CPF燃料の原料とします。
- ⑦前年度導入のドライブレコーダーが有効に活用できていません。安全・燃費向上の為、活用方法の再検討を担当委員会に指示しました。
- ⑧社員の環境への取組における評価が不十分です。自己の目標の設定と振り返りに役立っていません。人事グループと共有し、課題解決できる評価表を作成し評価制度を見直します。



■取組結果とその評価■

- ①CPF燃料の製造を開始しました。目標値の設定はできなかったのですが、平均で90t/月の製造ができています。製造開始により、電力使用量が倍近く増え、CO₂排出量が前年比1割増となりましたが、CPF燃料の製造・利用で埋立量が削減されることによるCO₂やメタンの発生抑制、販売先での化石燃料に変わる燃料として利用されることによるCO₂の削減に繋がります。フラフ燃料を使用すると化石燃料から発生するCO₂を約3割削減することができるため、弊社のCO₂発生の増加分はじゅうぶん吸収できます。
- ②CPF燃料を販売先へ自社運搬するため、大型のウイング車を購入しました。試走は済んでいますが燃料費、人件費などを吸収できる運用方法を模索中で、まだフル活用できていません。
- ③燃費向上装置のデモ導入を行いましたが、大きな効果が見られなかつたため、各車両への導入は見送りとしました。
- ④埋立処分していた廃プラスチックの一部を焼却処理に変更しました。300t弱の埋立量が削減でき、リサイクル率アップに繋がりました。
- ⑤建設廃棄物の受入量が50tほど増加しましたが、建設系の混合廃棄物の割合が5%下がりました。お客様への分別協力依頼とお客様のご協力の結果だと思われます。
- ⑥事業系一般廃棄物の収集における可燃物の分別が不十分だったため、排出事業所へプラスチックと古紙の専用容器の設置を進めていますが、置き場の問題やお客様の意向により全てのお客様への設置には至っていません。設置済のお客様より回収したプラスチックはCPF燃料の原料として再利用しています。
- ⑦ドライブレコーダーにより、事故の際の状況確認やスピードの出し過ぎなどの抑止力になっています。これからは運転技術の向上や燃費効率、アップ、車両への負荷の軽減に活用していきます。
- ⑧透明性・平等性のある評価表への改定に取り組んでいますが、完成には至りませんでした。次年度も引き続き取り組み、社員のモチベーションアップに繋がる評価表を作成します。



教育・訓練の計画及び実績の記録

分類	講習会・研修会・勉強会	対象グループ	具体的な内容	予定	実施日	
1 環境教育 関係	エコアクションについて	全グループ	エコアクションとは、取組などについての教育	入社時	随時	
	車両運行前点検等 研修会	収集運搬 グループ	1.点検の重要ポイント 2.事故時の対処方法	入社時	随時	
	エコドライブ研修会		動画視聴、販売店での講習及び実技の検証	入社時	随時	
	タイヤ点検講習会		動画視聴により安全且つ環境に配慮したタイヤ選 びタイヤ点検法を学ぶ	入社時	随時	
	重機運転・メンテナン ス研修会		動画視聴により環境及び安全運転上の注意事項 と安全衛生法について学ぶ	入社時	随時	
	リスクアセスメント会議	全グループ	あらゆるリスクを想定し、意見交換をする	4.7.10.1 月	4.7.10.1 月	
	産業廃棄物処理実務 者研修会	該当者	産廃の取扱の実務に必要な知識の習得	10月	10/24	
2	環境上の緊 急事態関係	廃油・排水・汚水流出 を想定した訓練	収集運搬 グループ	緊急事態を想定し実態に沿った訓練を行う	6月	6/17
3	外部からの 苦情等関係	クレーム対応勉強会	全グループ	苦情等が発生した際、即時各グループでその原因 と是正を話し合う	随時	随時
4	環境関連 法規関係	廃棄物適正処理研修	全グループ	「廃棄物の処理と方法」「指導要綱」についてテキ ストを用いて研修を行う 1.処分と収集運搬の許可基準 2.排出事業者責任について 3.契約書について 4.県や環境省からの通達事項の確認 5.リサイクル率向上について 6.その他(SDG'Sについて) 法改正の有無を確認し、対応する	入社時	随時
5	問題の是正 処置及び 予防・処置 関係	社内勉強会 グループ長会議	全グループ 各グループ長	問題が発生した場合、各グループでその原因と是 正を話し合う 定期的なミーティングにより、気づきをあげ解決し ていく 各グループからの吸い上げを基に、協議・審議・報 告を行う	随時	随時
6	その他	消防訓練	全グループ	緊急事態を想定し実態に沿った訓練を行う	2月	2/15



R7.2.15消防訓練

R6.6.17油流出訓練

環境への取組の履歴



1993年

熊本県・熊本市産業廃棄物収集運搬業の
許可を取得

2001年

新社屋及び選別・保管施設を建設



2004年

熊本県産業廃棄物処分業(選別)を取得
産業廃棄物の選別施設建設・稼働

2006年

エコアクション21を取得

2008年～2017年

関連会社(有)百式にてバイオディーゼル燃料の精製
事業を行う

2010年

産業廃棄物の破碎及び圧縮・梱包施設を増設
混合廃棄物の選別ライン新設



2013年

熊本県より優良産廃業者の認定を受ける

2014年

太陽光発電システム（84Kw）を設置し発電事業開始



2015年

発泡スチロール減容器を増設

2017年

産業廃棄物の選別施設を移設拡張及び破碎設備の増設



2018年

大津町の一般廃棄物処分業を取得

2019年

水銀使用製品産業廃棄物及び石綿含有産業廃棄物
の積替え保管施設の許可を取得

スイーパーの導入



2020年

最終処分先への輸送のため大型車両を購入
低燃費、低騒音の環境基準適合のクランプリフト、
ユンボの購入



環境への取組の履歴

2022年

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律
二軸破碎機の刃の交換



2024年

C P F(フラフ燃料) 製造機設置完了・稼働
10t ウイング車購入
燃費向上装置のデモ導入



2023年

施設事務所竣工
4t パッカー車購入
ホイルローダー購入
収集運搬車両全車にドライブレコーダー設置
一軸破碎機作動油交換
3t ユニック車入替
フラフ燃料製造機の設置工事開始
事務所棟玄関の植栽





地域環境コミュニケーション I

◆大津町と高齢者等見守りネットワーク協定を結びました！



■パートナーシップ戦略委員会

私たちの地元である大津町と「高齢者等見守りネットワーク協定」を結びました。これは、弊社の経営理念に掲げている「地域環境コミュニケーション」づくりと「地域からの要望に高い位置で応える」ための行動のひとつです。

私たち事業者は、地域に認められ受け入れられてこそ事業の継続が維持できると考えます。私たちの会社がある杉水地区も高齢化が進んでいることから下記の取組を行っていきます。

★具体的な取組

①通勤時や毎朝ボランティアで行っている安全誘導への道中を利用して次のような高齢者がいないか気を配る。

- ・いつも同じ服だったり、季節に合わない服、極端に汚れた服を着ている
- ・いつも見かける高齢者が急に痩せた、顔色が悪いと感じる
- ・見知らぬ業者などを頻繁に見かける
- ・不自然に一人で歩いている

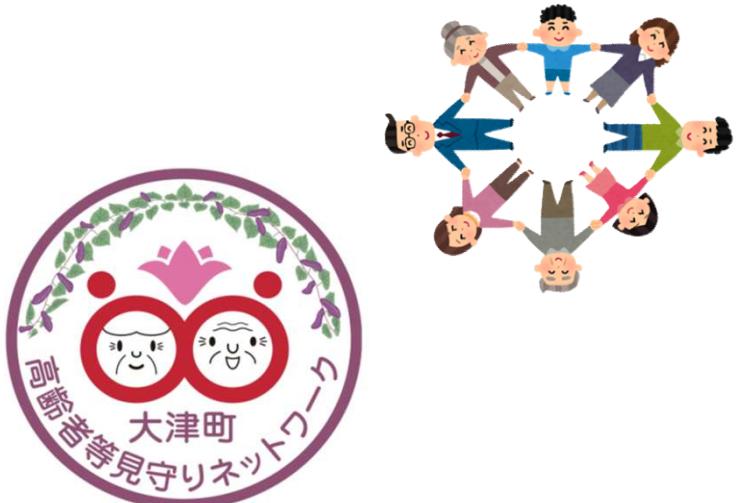
など気付いたら社内で共有し、代表が一括で関係所管に連絡する。

②地区の区役の際、弊社車両による応援を行う。

③弊社施設にて祭りを行い、地域の方々を招待する。

地元自治会より老人会の予算は組んでもらうものの集まるる場所がないとの声をきき、弊社の施設を提供し地域の方々を招待した祭りを次年度早々に計画しています。私たちの今までの取組をパネルで紹介したり、飲食やゲームを提供し募金を集め、地元の小学校へ寄付をする予定です。祭りに参加いただくことで、私たちも地域の方々の顔や名前を覚えられ普段の様子もわかり、見守りに役立てられます。

また、大津町は世界的に有名な半導体企業の進出により、人口増加や土地価格の高騰などが起こっています。事件や事故に地域の高齢者が巻き込まれないように、私たちの存在が抑止力になればと思います。





地域環境コミュニケーションⅡ

◆環境出前講座



～小学校～

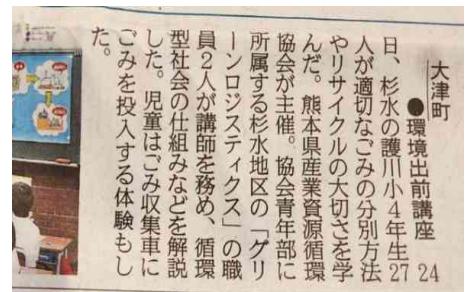
●環境出前講座とは、弊社も所属している熊本県産業資源循環協会の青年部が主催する講座で、子ども達に日頃出しているごみ(廃棄物)の処分や環境保全に関心をもってもらうことを目的とし、平成25年から取り組んでいる事業です。

弊社からも地元の小学校での講座に講師として参加し、ごみの分別やパッカー車を持ち込みごみの投入体験をしてもらっています！

大津町立護川小学校 R6.6.24

菊池市立隈府小学校 R6.10.22

●熊日新聞にも掲載されました



～幼稚園・保育園～

🐻 ワクワクごみ投入大作戦 R6.5.15



●今年も「ワクワクごみ投入大作戦」に協力企業として参加してきました。

これは弊社とお取引いただいている株式会社PLUMPLAN様が、子ども達に楽しく環境について考えてもらいたい、またいろいろな体験をしてもらいたいという想いから昨年より始まったイベントです。

パッカー車と4t車を持ち込み、ゴミの投入体験、コンテナの脱着などを見もらいました。

パッカー車へごみの投入を体験してもらいました。

くまもんも楽しそうでした！

コンテナの脱着作業の様子です。





地域環境コミュニケーションⅢ

◆大津支援学校 R6.10.3



●一般就労を目指す大津支援学校1・2年生の生徒さん達と地元事業者による懇談会に参加させていただきました。会の前半に「ポッチャ」というゲームを通してお互いの緊張を和らげ、後半は生徒さん達が抱えている将来の仕事に関する疑問や不安に、私たちの実体験をもとに誠実に話をさせていただきました。純粋な生徒さん達の想いや眼差しにこちら側が胸を打たれる場となりました。



ポッチャで緊張をほぐしました



懇談会の様子です

◆さくら保育園様より手作りカレンダーをいただきました！



●一般廃棄物を収集させていただいている「さくら保育園」様の子ども達から来年のカレンダーをいただきました。

勤労感謝の日にカレンダーをいただきはじめて6年目を迎めました。毎年趣向を凝らしたカレンダーをさせていただいているのですが、保育士の先生方の発想力の凄さに感動するばかりです。

子ども達の小さな手形や足形を使ったかわいらしいカレンダーに癒され元気をもらっています！

●カレンダーのお礼にX'masカードとお菓子を贈りました。クリスマス会で使ってくれるそうです。このような関係性はとても貴重でありがたいものです。大切にいつまでも続けていきたいと思います！



地域環境コミュニケーションIV

『優しい気持ち』が繋がっていきます!!

◆登校時の安全誘導を続けています！



●護川小学校の子どもたちが安全に登校できるよう安全誘導活動を行っています。
これは弊社有志によるボランティアグループGreen fiver'sの活動で、大津町の地域通貨『水水』
を獲得し、更なる地域貢献に繋げていきます。

fiver'sとは…5つのSを意味しています
Sugimizu/Smile/Safety/Sustainable/Save
私たちが杉水地区の笑顔と安全を継続して守ります♥

◆農業体験 R6.11.13



★ダイバーシティ委員会の活動です★



●学校農園を持たない大津支援学校様の課題解決のため、就農希望の生徒さんとなりの護川小学校の学校農園に招待し、地元農家さんご協力のもと、農業体験学習(カライトモ収穫と高菜植付け)を行いました！

この呼びかけに地域のたくさんの方々がご参加くださいましたことで、イキイキ楽しい取り組みとなりました。収穫したカライトモは学校で「いも天」にして提供されます。また、シンママ応援熊本さんにも生徒さん達の優しい気持ちと一緒に届けます！

この活動費用は、弊社有志によるボランティアGreen fiver'sの活動(安全誘導)で得た大津町の地域通貨『水水』を活用したものです。





地域環境コミュニケーションV



◆優しい気持ちをお届けしました！

●お届けしている寄付金は、弊社のお客様よりお預かりしている、マニフェスト発行手数料より捻出しています。多くの企業さまからのやさしさと応援の気持ちです！



♥就労継続型支援A型事業所プロ

レジャーワークさま

マニフェストの入力業務やおいしいパンの販売でお世話になります。入力業務を担当してくれていた利用者さんの就職が決まったとのうれしいニュースが届きました！



♥シンママ応援熊本さま

未来を担う子ども達を育てるために、日々奮闘されているシンママさん達に有効活用していただきたいです!!

◆中小企業家同友会で事例報告



●2025年2月20日に行われた中小企業家同友会の「全国障がい者問題拡大委員会」で、弊社 代表取締役 岩崎浩が、これまでの障がい者雇用と地域コミュニケーションの実践事例を報告させていただきました。

◆「どんどや」に参加しました！ R25.1.11

●地元の護川小学校、地域住民、父兄で構成される「護川コミュニティスクール」で開催されたどんどやに参加しました。会社の車両を使った竹の運搬から設営までお手伝いをさせていただきました。





環境関連法規等の遵守状況

◆該当する主な環境関連法規・条例

分類	法令名	適用事項	遵守状況
廃棄物	廃棄物処理法	排出事業者責任	○
		廃棄物の適正処理	○
		マニフェスト伝票の適正使用	○
公害	環境基本法	廃棄物の適正処理 リサイクル率向上	○ ○
	大気汚染防止法	収集車両走行時のCO2排出量削減	○
	水質汚濁防止法	洗車場排水溝の清掃	○
	悪臭防止法	毎日の運搬車両の洗車	○
	騒音規制法	エコドライブ	○
	振動規制法	エコドライブ	○
	水銀汚染防止法	廃棄物の適正処理	○
環境	循環型社会形成推進基本法	リサイクル率の向上	○
	地球温暖化対策推進法	CO2排出抑制	○
	環境教育推進法	各グループによる勉強会 社外研修への参加、出前講座	○ ○
	フロン排出抑制法	天井はめこみエアコンの点検	○
リサイクル	プラスチック資源循環法	排出事業者様への分別協力依頼	○
	資源有効利用促進法	廃棄物の適正処理	○
	容器包装リサイクル法	顧客への分別提案	○
	家電リサイクル法	家電リサイクル件の適正処理	○
熊本県条例	熊本県産業廃棄物指導要綱	マニフェスト伝票の適正使用	○
		交付状況報告書	○
	熊本県環境基本条例	法令遵守	○
他	熊本県生活環境の保全に関する条例	法令遵守	○
	消防法	消防訓練・消火器の点検	○

- 環境関連法規の遵守については、弊社に適用される環境関連法規・条例の一覧にて年1回遵守状況を確認し、法改正にも都度対応・共有しております。
- 本年度、法・条例・要綱等に違反訴訟はありませんでした。



環境活動計画

	取組項目	対象Gr	取組内容
●二酸化炭素排出量削減	電気 電力 使用量 の削減	管理事務所・施設事務所	①部屋を出る際は証明を消し、昼休みの時間帯は証明を半分消す ②温湿度計を設置し、冷え過ぎ、暖め過ぎを防ぎ適温を保つ ③長時間離席する場合はパソコンをスリープ状態にする
		施設	①負荷を減らし効率的な稼働に努める
	灯油 ガス 使用量 の削減	管理事務所	①給湯室のガスコンロ使用は必要最低限に留める ②ヒーターのフィルターを定期的に清掃する(冬場1回/月) ③ウォームビズを心掛ける
			①エコドライブ講習会の実施
		収集運搬グループ	②タイヤ販売店による月1回のタイヤ点検実施 ③過積載をなくし燃料使用量削減の向上に努める ④処理委託先及び有価物売却先への輸送を4t車から大型車両へ変更することで燃料使用量を削減する ⑤車両ごとの燃費を算出し、講習会の企画や車両のメンテナンス・買い替えの目安とする
	施設		⑥メーカー推奨の項目による重機の使用前点検実施
●水使用量削減		全グループ	①洗車は高压洗浄機を使用する ②冬場の水道管凍結による破裂防止のため、毛布を巻くなどの対応をする。また、極寒時には水を少量流すなどの対策をする ③漏水の早期発見のため、夏場は2週間に1度、冬場は1週間に1度の漏水点検をする ④水道使用時に水の出しつばなしをしない ⑤蛇口・ストッパーなど設備不良のチェックや取替を適時行う
●量削減の業務廃棄物所から出ら		全グループ	①可燃物・プラスチック・不燃物・ビンカンペット・紙類の分別の徹底 ②社内文書はできるだけメールやSNSツールを利用し、紙で必要な場合は裏紙を使用する ③ファクシミリの受信はパソコンの画面で確認し、必要な場合のみ印刷する ④新入社員研修にマイバッグ・マイ箸の使用推奨、持ち込んだゴミの持ち帰り、3R推進の項目を入れる
●資源活用の有効	施設		①お客様より買い取った段ボールを利用した段ボール圧縮ブロックを有価物置場の仕切りとして活用する ②お客様より買い取った鉄製コンテナを保管BOXとして活用する
		事務所	①PPC用紙の裏紙の活用
●リサイクル率の向上	全グループ		①圧縮・破碎・選別の中間処理において、付加価値を高めた再資源化に努める ②排出事業者様に対し、再資源化に必要な廃棄物の保管方法等の提案を行う ③破碎機・圧縮機等メンテナンスの徹底 ※破碎機の刃の交換により、負荷の少ないより効率的な稼働でリサイクル率の向上に努める ④排出事業者様に対して行政からの資料等を配布し分別の徹底をお願いすることにより、単純焼却量を減らし再資源化の量を増やすよう努める



代表者による全体評価と見直し

◆環境経営方針

変更ありません。

◆環境マネジメントシステム

環境管理責任者の指示のもと、環境管理委員会の各担当ごとに決定した環境経営目標達成に向け、管理表を作成し、それぞれの管理の徹底を行う。

環境管理委員会の各担当の取組や課題化、共有化において代表者と環境管理責任者でもフォローしていきます。

◆環境経営目標・環境経営活動計画及び実績と評価

環境経営目標と活動計画及び実績と評価は環境レポートに記載の通り。

◆次年度の見直し

CO2削減

①CPF燃料の製造が2年目に入ります。今後5年を目途に140t/月の製造を目指します。まず次年度は100t/月の製造を目標とします。破碎担当者の出勤ローテーションを組む、破碎機の刃の定期的な交換を行うなどにより、製造効率を上げ、さらなる環境負荷の低減に努めます。

②業務で使用する車両のタイヤを、生産から廃棄までの過程で資源量の削減ができ、CO2削減に大きな効果が期待できる「リトレッドタイヤ」に変えていきます。

適正処理

③廃プラスチックの焼却処理を委託している施設での受入量が年々増加し、受入れ基準、量ともに制限が厳しくなってきている状況です。新たな焼却施設を開拓し、適正処理・再資源化に努めます。

④一般廃棄物の収集において、廃プラや紙屑の混入問題が解決していません。引き続きお客様への協力を呼びかけ、行政と連携しながら分別を推進していきます。

人事評価制度

⑤人事評価制度の見直しができませんでした。環境への取組における評価を含めた評価表の作り直し、評価基準の統一化などをはかり、社員のモチベーションアップへと繋がる評価に変えていきます。

DX

⑥二次マニフェストを電子マニフェストへ移行します。また、業務委託契約書の電子化を進め、時間とコストの削減に努めます。

⑦現在使用している経理ソフト「環境将軍」に付随した配車ソフトを導入し、予約から配車までの業務の効率化を図ります。コンテナ管理も容易にできるようになります。

⑧請求書の受け取りから支払までを自動化できる「バクラク」を導入し作業効率をあげてきます。

⑨応接室をリモート会議等に対応できるようスマートオフィスに変えていきます。

広報

⑩弊社からの発信やお客様からの予約が手軽に迅速に行えるよう公式ラインを始めます。また、弊社の業務内容や取り組みなどの説明に使えるリーフレットの作成、またホームページのリニューアルを行います。

健康経営

⑪経済産業省の健康経営優良法人認定制度に申請を行います。健康経営アドバイザーの有資格者を置き、社員の健康を守り、生産性向上に努めます。また、外部委託によるストレスチェックも取り入れていく予定です。

地域環境コミュニケーション

⑫私たちの会社がある地区は、町の中でも高齢化率の高い地域で、昔からの行事や美化作業の担い手が足りていない状況です。自治会から地域の方々が集まれる場所がないとの声もあがっているため、会社の敷地を開放し「地域感謝祭」を開催します。第1回目は飲食、ステージなど全て弊社で準備し、住民の方々をご招待します。そこでは募金をお願いし、集まったお金は地域の小学校へ寄付、子ども達のために使っていただきます。

また、美化作業時には、弊社の収集車両を提供するなどの協力体制をとり、地域に認められ、頼られる企業として成長していきます。

安全衛生

⑬今年度の事故件数が多く、保険等の費用が大幅に値上がりし経営を圧迫しています。ドラレコ及びドラレコの機能「スマイルングロード」を有効活用していきます。

⑭運転・作業には、人の心が影響します。OD式安全性テストを導入し、運転に対する心構えや特性を知るきっかけにつなげ、事故ゼロを最重要課題として実現に向け取り組みます。

★前回審査の是正事項

前回審査の是正事項は、CPF製造の目標値の設定及びBCP(事業継続計画)の策定でした。BCPの一環として、2021年に行政及び同業者と相互支援協定を締結していますが、それ以外は簡易的な手順書を作るに留まっている状況です。災害時における私たちの業界が担う責任は大きいため、各方面からの意見を取り入れながらBCPの策定を進めます。

株式会社グリーンロジスティクス

代表取締役 岩崎 浩

★表紙の絵★

タイトル：動物、虫

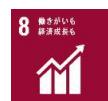
作者：TAKERU

作者のコメント：うし、うさぎ、へび、ちょうを頑張りました

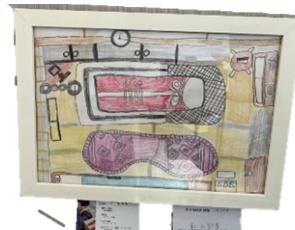
提供：リタシード

※リタシード代表の吉田様より、作者TAKERUさんのお母様も大変喜ばれていらっしゃいましたとのご報告をいただきました！

『小さな美術館』始めました



●環境経営レポートの作成にあたり、表紙の絵でお世話になっている就労継続支援B型事業所リタシードさんが、絵のリース事業『小さな美術館』をされているとお聞きし、事務所棟階段の踊り場の壁にも絵をお借りすることにしました！



♥♥♥私たちの想い♥♥♥

この環境経営レポートの表紙を飾るのは、就労継続支援B型事業所リタシードさんの利用者さんたちが描かれた絵です。とても楽しく魅力的な作者の方々が描かれる作品は、どれも素敵なものばかりで、観る人の心を癒してくれます。いつも1枚を選ぶのにとても苦労するのですが、今回リタシードさんが絵のリース事業「小さな美術館」をされていると知り、弊社にも展示スペースを設けることとしました。

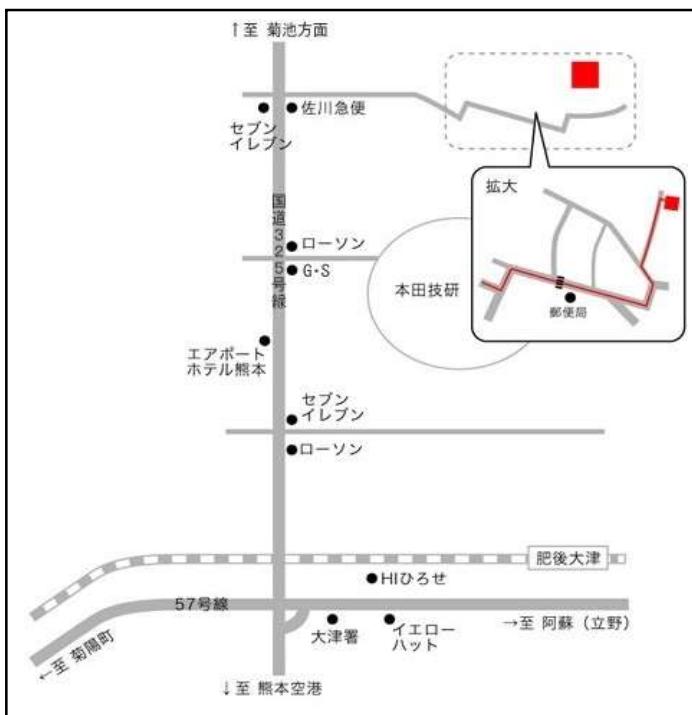
レポートの表紙や小さな美術館を通して私たちが目指すのは、作者の方々の自立と共生です。

作者の方々が持つのは障がいではなく個性、その個性を活かした作品が収入へと繋がる。

障がいのある人もそうでない人も、お互いがお互いを必要とし、共に生きていく社会になるように、より多くの皆様に絵を見ていただきたいと思います。



株式会社グリーンロジスティクス
e-style camp



〒869-1236
熊本県菊池郡大津町杉水2506
TEL 096(293)0743 FAX 096(293)0747